

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月24日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>○生徒の多様性を尊重し、個性や能力を伸ばすために常にカリキュラムマネジメントに努める。</p> <p>○生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を実現させる。</p> <p>○生徒の主体的な学習活動を充実させ、学力を育成する。</p> <p>○授業改善の取組みを充実させる。</p>	<p>①生徒の主体的な学習活動を充実させるための効果的な取組みを推進する。</p> <p>②組織的な授業改善の取組みを充実させることで、個々の教員の授業力向上と生徒の学力増進を図る。</p>	<p>①朝学習、スタディジョギング等の取組みを推進し、生徒の学習意欲を引き出す。</p> <p>①夏期講座等で、生徒の学習意欲を引き出せるような企画を検討し、自学自習の習慣づけを進める。</p> <p>②教科間の連携を深めながら、校内における研究授業や教員相互の授業参観を組織的に推進する。</p> <p>②他校での公開授業等への積極的な参加を促す。</p>	<p>①朝学習やスタディジョギング等の実施により、自学自習の習慣の定着や学力向上に一定の効果がみられたか。</p> <p>①夏期講座の参加者が前年度より増加したか。</p> <p>②教科を越えた研修等により、生徒の主体的な学びに対応できる授業実践が生まれたか。</p> <p>②他校での公開授業等への参加者が前年度より増加したか。</p>	<p>①1、2年生を対象に「朝学習」、「スタディジョギング」を実施した。例年実施していない3年生も後期実施に向けて素案を策定した。学力向上の顕著な効果は見られないが、自学自習の習慣づけに一定の効果は見られた。</p> <p>①夏期講座については新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う夏季休業の短縮等により、今年度は実施しなかった。</p> <p>②授業でのICT利活用を推進させるために、Google Meetをオンライン授業の形式で用いた教員向け研修会を行った。</p> <p>②新型コロナウイルス感染拡大の影響で、全体的に公開授業の実施が控えられているため、参加できていない。</p>	<p>①継続して実施することで、自学自習の習慣づけを確かなものにしていく。昨年度朝学習を実施していなかった2年生も実施するようになったので、取組を継続させたい。</p> <p>①夏期講習の募集時期をもっと早める必要がある。また、生徒の参加を促す内容の検討を進める必要がある。</p> <p>②一斉形式のICT利用推進研修会であったため、個々のスキルに応じ切れなかったという点で課題が残った。</p> <p>②他校での研修の代替を考えなければならないが、従前の校内研修に加えて実施ということになると時間的な確保が問題となる。</p>	<p>①生徒の主体的な学習活動が習慣化されてきている。今後も継続されていくことを期待する。</p> <p>①新型コロナウイルス感染症拡大により学校運営や授業、行事のあり方等を大きく見直さざるを得ない1年であったが、学校側は柔軟に良く対応したと思われる。</p> <p>①スタディジョギングについては現状の1、2年生での学習習慣を途切れさせないよう、次年度は年度当初から全学年で実施できるよう努力してもらいたい。</p> <p>①Google ClassroomやGoogle Meetは今後、感染症だけでなく災害時等にも備えて継続的に活用していけるよう工夫してもらいたい。</p> <p>②校内、校外を問わず、教員間の授業研修やICT活用法研修を全職員に推進してほしい。</p>	<p>①朝学習やスタディジョギング等を通して生徒の主体的な学習活動を習慣化させることができている。今後も更なる取組みの継続と深化を図り、指導効果を目に見える形で残していく必要がある。</p> <p>①今年度はコロナ禍の影響でGoogle ClassroomやGoogle Meetなどを利用したりリモート授業やリモート指導に積極的に取り組んできた。今年度経験し、積み上げてきた成果を校内研修会を通して全職員に共有させたい。</p> <p>②教科指導においても、今年度はコロナ対策として個々の教員が様々な工夫を実践してきたが、その創意や工夫を全職員で共有する機会が持てなかった。次年度は校内の授業改善研修等で積極的に意見交換を行い、教育資産の共有を図らせたい。</p>	<p>①朝学習やスタディジョギングを単なる学年ごとの取組みとしないうで、学校全体で取り組むべき業務ととらえて、グループや学年の枠を超えて取組み方針を再検討していきたい。</p> <p>①今年度はコロナ禍の影響で必要に迫られて個々の教員がリモート指導やリモート授業に手探りで取り組んできた。今年度経験し、積み上げてきた成果を校内研修会を通して全職員に共有させたい。</p> <p>②教科指導においても、今年度はコロナ対策として個々の教員が様々な工夫を実践してきたが、その創意や工夫を全職員で共有する機会が持てなかった。次年度は校内の授業改善研修等で積極的に意見交換を行い、教育資産の共有を図らせたい。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>○組織的な相談体制を整備する。</p> <p>○生徒一人ひとりの個を捉えた支援体制を確立する。</p> <p>○グローバル社会を生きる能力の獲得と自立する力を育成する。</p>	<p>①学校全体としての教育相談体制が機能するようにする。</p> <p>②生徒一人ひとりに対する生徒支援の実現を目指す。</p> <p>③「自主自立」を実現できる生徒の育成を行う。</p>	<p>①各学年の生徒情報の共有とともに、教育相談コーディネーターが中心となって、学校全体として教育相談を機能させていく。</p> <p>②SCやSSWと連携し、生徒の抱える多様な問題に対応して支援していく。</p> <p>③考えて行動する機会を数多く設け、生徒の自立を促す。</p>	<p>①教育相談が、各学年とコーディネーターが連携して組織的に機能したか。</p> <p>②精神面だけでなく、学校生活、家庭での問題なども支援し、不登校の状態の生徒をなくすことができたか。</p> <p>③基本的な生活習慣に乱れはなかったか。反社会的行動はなかったか。</p>	<p>①校内の教育相談制度のしくみを職員全体に周知し、その中核に教育相談コーディネーターを位置付けた。</p> <p>②様々な状況にある生徒に対応してきたが、必要に応じてSCやSSWにつなげた。</p> <p>③2カ月の臨時休業期間があったが、これまでの特別指導件数は例年に比べ少なかった。</p> <p>③コロナ禍という厳しい条件の中、生徒自身が実施可能な文化祭を立案・準備し、実施することができた。</p>	<p>①学校全体を取りまとめるコーディネーターのもとへ情報が集まるようになり、生徒の状況が把握されるようになった。</p> <p>②長い休業期間があったため、十分に話を聞く時間が取れないケースがある。今後継続して指導する必要がある。</p> <p>③臨時休業後には生活リズムがつかめず、規則正しい生活が営めない生徒が少なくない。</p> <p>③生徒自身が厳しい条件の中でできる行事の創造を支援する。</p>	<p>①学校側では生徒一人ひとりに対して丁寧に対応することを中心掛けていると思われる。これは、学校側の生徒を管理しようという姿勢ではなく、自主的に何かをやるようにしたいという温かい見守りの姿勢を感じた。</p> <p>①継続力の弱い生徒には、次の予定をはっきりさせること、コンスタントに見守られていると感じられる環境づくりが大切である。</p> <p>②教育相談の情報が集約化できたことは評価できる。今後はその情報を実際の対応に生かしてほしい。</p> <p>③生徒自身の発案による現状に応じた行事の実施は素晴らしいことと思う。</p>	<p>①校内の教育相談体制については、教育相談コーディネーターを中核に位置付け、効果的な体制を構築できた。しかし、生徒の抱える状況はますます多様化しており、今後もSCやSSW、あるいは警察、児童相談所等との緊密な連携が益々必要になってくる。</p> <p>①本校職員の生徒に対する姿勢として、生徒の自主性・主体性を育成するために忍耐強く見守っていることを高く評価された。</p> <p>③行事を通して生徒を育てていくという本校の基本方針はコロナ禍の今年度においても実践できた。</p>	<p>①②コロナ禍の影響や複雑化する家庭環境の変化など、子供たちを取り巻く不安や社会問題に対応するためには、今後もますます外部機関との連携を密接にしていく必要がある。</p> <p>③完校まであと2年となったが、本校の校訓である「自主、責任、努力」を全職員をあげて最後まで継承していく。</p> <p>③文化祭や体育祭等の生徒会行事を更に活性化させて、生徒の自主自立を図る。</p>

	視点	3年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○生徒が主体的に進路を選択できるような支援体制の確立と生徒の進路意識の向上を目指す。 ○シチズンシップ教育の取組みを充実させ、生徒が積極的に社会参加するための能力を育む。	○新たな大学入試等に対応した取組みと、生徒の進学希望の変化に応じて、きめ細かな進路指導を実施し、生徒個々の進路実現に向けた支援を行う。	①進路希望調査及び、計画的な面談を通して生徒個々の希望を的確に把握し、様々な進路希望に合わせた進路ガイダンスの充実を図る。 ②外部組織との連携を図り、最新の情報を得るとともに、生徒が自らの進路実現に向けた取組みに対して積極的に支援する。	①進路希望調査を適切に実施できたか。面談を通して把握した進路希望に対して適切なガイダンスを実施できたか。 ②最新の情報を的確に生徒、保護者に提供し、その情報を生かした進路指導ができたか。	①3年保護者対象進学説明会を大学、専門学校別に実施し76名の参加があった。1・2年保護者進路ガイダンスを実施し、63名の参加があった。 ②学校独自の進路希望調査や外部業者による進路適正検査を実施し、各学年の面談等に活かすことができた。 ③3学年には、面接や志望理由書講演会の実施、1、2年には進路説明会の実施により、生徒の進路意識の向上が図れた。	①大学入試改革に向けた対策(コミュニケーション、プレゼンテーション、論文等)を学校全体で進める必要がある。 ②各教科、学年等と連携しながら基礎学力の向上を図る必要がある。	①例年と異なる状況の中で生徒への進路説明会や面接対策等を実施したことで、生徒の進路意識の向上を図れたことは評価できる。今後ともきめ細かい指導を期待する。 ②大学入試改革等に迅速に対応した進路説明会の実施より、適切な情報を得られた。 ③保護者向け進路説明会等の実施において、参加人数が少ないように思われる。開催日時等が適切であったか等、検討が必要と思われる。	①保護者向け進路説明会においてはコロナ禍の中での実施であったが、3学年76名、1、2学年合同が63名の出席であった。学校関係者評価にもある通り、更なる保護者の参加を目指して開催日時や情報提供について検討していく必要がある。 ①大学入試改革に向けた対策(生徒向けの指導)を学校全体でさらに推し進めていく必要がある。 ②学年、教科と連携しながら基礎学力の更なる強化を図る必要がある。	①生徒の進路意識を維持、向上させるような進路説明会、キャリアパスポートの作成、面接指導、論文指導等のさまざまな取組みを今後も推進していく。 ②進路指導においても基礎学力の向上と各種検定試験や資格取得の指導、支援が必要である。教科や学年と連携して学校として本気で取り組んでいく必要がある。
4	地域等との協働	○コミュニティ・スクールを活用し、地域との協働を図り、生徒の生きる力を育む。 ○地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。	①地域の教育力を活用し、様々な分野の事象を専門的に学ぶ。また、本校の取組みを新校へ継承できるよう整備する。 ②地域と連携し、地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。	①「総合的な探究(学習)の時間」において、学外の地域の方々の指導の下、幅広い教育活動を実践する。 ②委員会や部活動、学年などの単位で社会参加活動を計画・実践する。	①生徒が前向きに取り組む、幅広い教育活動が実践できたか。また、新校への土台作りができたかどうか。 ②どれだけ多くの生徒が積極的に参加したか。	①コロナ感染予防のため、1年のワークショップ、2年の地域インタビューの内容・形態を工夫して計画を練り直した。そのため、事前指導に力を注いだ。 ②例年1年生が実施している逗子海岸清掃活動を、行事が集中したため今年度は中止した。	①1年のワークショップは昨年より講座数を増やし、感染予防と共に丁寧な指導を目指した。2年の地域インタビューはインタビュアーの数を減らし、学校と逗子文化プラザ市民交流センターを中心に実施するよう変更した。 ②今年度の活動は難しいが、次年度へいかに引き継ぐかが大きな課題である。	①総合学習における地域連携では、今年度はコロナ禍の中、学校としてできる限りの努力をしていたと思う。2年生の地域インタビューではコロナ禍を踏まえて、実施形態を大きく変更しながらも、実施できたことは評価できる。また、1年生のワークショップでは担当教員の尽力もあり、講師もスムーズに授業ができ、これまでにない充実したものとなった。 ②次年度や新校へのスムーズな継続が今後の課題である。	①地域連携教育として例年取り組んできた1年生のワークショップ、2年生の地域インタビュー、3年生のシチズンシップ教育は、今年も充実した内容であったと講師や関係者から高い評価を頂いた。次年度も引き続き、高評価が頂けるよう取り組みたい。 ①1学年のワークショップは今年度で終了となるが、この取組みを新校に上手く引き継いでいきたい。	①地域連携教育は本校が10年の歳月をかけて築き上げてきたものである。また、学校運営協議会も平成28年度より試行校として取り組んできた実績がある。この伝統やノウハウ、教育的資産をいかに令和5年度から始まる新校に引き継いでいくかが今後の使命であると考えている。
5	学校管理 学校運営	○学校経営を計画的に行い、定期的に見直し・改善することにより、学校運営の適正化を図る。 ○教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。 ○安心安全な教育環境の整備と職員の事故・不祥事防止に努める。	①教員の働き方改革を推進し、職場全体での意識改革を図る。 ②生徒にとって安心安全な学校となるよう、常に教育環境の点検と整備に努める。 ③定期的に事故防止会議を開催し、職員一人ひとりが自分事として事故・不祥事防止に努める環境をつくる。	①職員各自で退庁時刻を記録したり、休日登下校簿を記入することにより、長時間労働防止を意識させる。 ①年休取得の促進を全職員に働き掛け、職場全体の年間年休率60%以上を目指す。 ②校内の施設設備点検を綿密に行い、異常があれば速やかに対応する。 ③各グループ主導の事故防止会議とし、職員各自に自分事としての自覚を高めさせる。	①連日、機械警備開始直前まで執務する職員がいなくなったか。休日の部活動指導の負担は適正か。 ①年休、振休等の取得が推進したか。 ②施設設備の異常に素早く対応できたか。 ③職員に事故防止意識が浸透し、些細なミスも含めた事故を予防できたか。	①職員各自に日々の退庁時刻を記録させたり、休日登下校簿の記載を指示し、長時間労働防止を意識させた。 ①年休、夏季休暇等の取得を促進するよう働き掛けをし、取得率の向上を図った。 ②プール脇のがけ崩れ、体育館の雨漏れ、トイレ排水口の詰まり等、施設設備の異常に関して素早く対応し、生徒の安全安心を図った。 ③グループ主導の事故防止会議を進めることにより、自分事としての自覚を高めさせることができた。	①タイムマネジメントの概念を全職員が共有していく必要がある。 ①職場全体の年休取得率を公表し、更なる取得促進を働き掛ける。 ②施設や校舎が老朽化し、随所で壁の剥落や雨漏り等の異常が頻発するが、全職員で異常を発見したら素早く事務室等に報告する意識付けが必要である。 ③事故防止会議がおざなりなものにならないように、工夫していく必要がある。	①生徒のことを第一に思う教職員にとって、働き方改革を額面通りに実行することは難しいと思うが、そのような中で職場の雰囲気を変えたり、先生方の意識改革を促し、休暇の取得率の向上を図ったことは評価できる。 ①感染症対策もあり、教員の仕事量が増えていると思うが、教員の働き方の意識はどの程度変わってきたのか、検証してもらいたい。 ②完校目前で大規模修繕等は行えないと思うが、老朽化が著しい校舎を見ると、施設・設備による事故が発生する懸念がある。完校までの2年間、事故が起こることのないように補習を適切に行ってほしい。	①4月より退勤時刻を副簿に記載させるようにした。また休日登下校簿の記載も習慣化させ、長時間労働防止意識の啓発に努めた。11月以降は県の勤務時間管理システムが導入されたので、職員の勤務時間管理についての意識は更に向上したと思われる。 ①年休、夏季休暇等の取得も計画的に行われた。 ②老朽化した校舎で、あちこちで外壁の剥落や雨水の漏水、排水溝のつまりが見られる。生徒の事故につながることはないよう、今後も定期的な点検や補修に留意していく必要がある。 ③引き続き、職員の事故防止意識を高めさせる必要がある。	①コロナ禍が解消して部活動指導が本格的に始動し始めれば、職員の長時間労働も多くなると思われる。そのような中でもいかに長時間労働防止の意識を啓発させていくかが課題である。個々の職員にこまめに指導していくしかないと思われる。 ②生徒にとって安心安全な学校となるよう、今後とも校内における施設管理に努め、異常を発見したら速やかに対応するようにしたい。 ③グループ主導の事故防止会議を今後も推進し、職員各人が自分事として事故不祥事を捉える習慣を身に付けさせる必要がある。

